

Medical Group AISEIKAI

介護福祉事業部



愛生訪問看護ステーション

介護福祉事業部 看護師長 中川 美樹子

1 特徴

愛生訪問看護ステーションは平成24年9月1日にスタッフが増員され、現在、看護師5名・理学療法士3名・作業療法士1名・事務員1名で、利用者の主治医や介護支援事業者との連携を密に、北区を中心にした近隣地域を訪問し、療養生活を送る対象者とその家族の意思を尊重しQOLが向上できるように、予防的支援から看取りまで24時間、365日体制で対応しています。

訪問看護ステーションでは以下のサービスを提供しています。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1) 病状の観察 | 2) 家族への介護指導を支援 |
| 3) 身体の清潔 | 4) 排泄の支援 |
| 5) 食事・栄養の支援、指導 | 6) リハビリテーション・生活範囲の拡大 |
| 7) 医療処置 | 8) 医療機器の管理、指導 |
| 9) 褥瘡予防や処置、創傷処置 | 10) 服薬管理、指導 |
| 11) ターミナルケア | 12) 利用者及び介護者の精神的ケア |

2 2012年活動実績

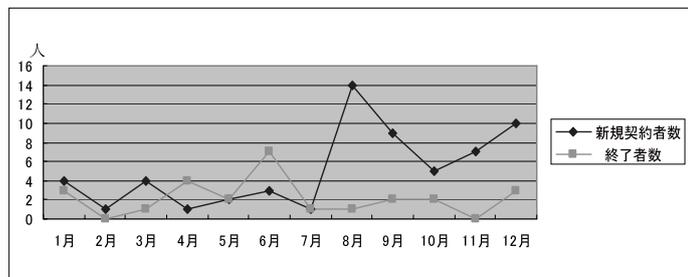
・ 1～12月利用者 ……100人

医療保険利用者13人・介護保険利用者87人(介入時医療保険利用者含む)

介護度	利用者数
要支援1	0
要支援2	8
要介護1	8
要介護2	17
要介護3	13
要介護4	18
要介護5	23

・ 延べ訪問件数 ……5467件

H24年度 契約状況



3 2013年目標

- 組織力の強化
 - ・ 人材確保
 - ・ 人材育成
 - ・ 業務改善
- 新規契約獲得
- 利用者主治医、居宅介護支援事業者との連携強化

あいせいデイサービスセンター

管理者 山田 慎也

1 あいせいデイサービスセンターの概要

パワーリハビリ4機、乗馬運動器、平行棒等のリハビリテーション機器を利用して頂き、朝と帰りのストレッチ体操、筋力低下予防、日常生活動作の維持の向上に努め、生活意欲の低下予防や閉じこもりを防止するとともに、家族の介護負担減にも繋がるように努めております。また、ご利用者様一人一人の課題や希望に応じた個別リハビリ計画を作成し定期的に評価、見直しをおこない、より質の高いケアを提供しております。食事は4種類のメニューの中から選択していただき。入浴は利用者の身体の状態に応じて、個浴や一般浴にて入浴していただきながら入浴動作のリハビリにつながっています。レクリエーションについては個別レクという形をとり、個別性を重視したサービス内容になっており、自分のペースで過ごしていただいております。また、定期的にボランティアの方々を招き利用者様の社会交流などにつとめています。

2 2012年活動実績

季節の企画として4月には、お花見。7月の七夕では短冊に願い事を書いて頂きました。9月の敬老の日では還暦や古希などの区切りを迎えられた方を対象に手作りの寄せ書きをプレゼントしお祝いをしました。10月は運動会を行い、個人、団体競技を行い優秀者は表彰をし、その様子を写真に撮影しお配りしたところご家族にも大変、好評でした。12月にはクリスマス会を、2月には節分をおこないました。日常のレクリエーションでは、男性の利用が多く見られるという特徴があり、将棋や麻雀が好まれ他利用者との交流作りにもつながっております。また個別レクだけではなく、小グループの集団レクリエーションを行いカラオケやゲーム、小物作りやクッキングを行い、季節のおやつ作りなどを行いました。リハビリテーションに関しては、パワーリハビリだけではなく、問題集などの脳トレの導入を図り認知能力低下予防への取り組みや、小集団でのリハビリ体操も行っています。歩行訓練では個別に歩行訓練チェックシートを作成し、完走者には表彰をするなどモチベーション向上にも努めています。ボランティアも、フラダンスやマジックショー、楽器の演奏など少しずつ種類が充実してきています。

3 2013年の目標

研修の機会を増やすことによる職員の教育体制の強化、レクリエーションの充実を図り、利用者の方にさらに取り組みをいただけるようリハビリメニューの開発、入浴サービスを充実させるための環境の整備等を行い、利用者の方々に楽しく利用していただき、運動機能向上が図れるデイサービスを目指していきます。

愛生居宅介護支援事業所

管理者 瀧ヶ平 斗喜子

1 特徴

愛生居宅介護支援事業所は平成11年9月に愛知県の指定を受け、平成12年4月、公的介護保険制度開始と同時に総合上飯田第一病院医療相談室にてケアプラン作成等の業務を開始しました。

しかし、居宅介護支援のケアマネジャーとしての業務が煩雑で、人員配置上適任者の確保ができないことから、平成16年3月末で一旦事業を休止し、平成17年4月にCKビルに場所を移してケアマネジャー1名で業務を再開しました。

その後、利用者の数に合わせてケアマネジャーを1名ずつ増員しながら受け入れ人数を増やし、現在の6名体制となりました。平成20年10月には特定事業所の指定を受け、困難ケースの対応等も行って地域の事業所ともつながりを深めています。

2 2012年活動実績

現在、常勤6名体制で特定事業所としての業務を継続しています。

月に最低1回、居宅を訪問してモニタリングやサービス利用についての相談を行い、サービス担当者会議の開催、ケアプラン作成、サービス利用票・提供票の作成、要介護認定調査、区役所への申請代行、レセプト等の主な業務を行うほか、週1回利用者に関する情報やサービス提供にあたっての留意事項に係る伝達等を目的とした会議、月1回の月例研修、困難ケースの事例検討や新規利用者の事例に対する相談等を行い、外部研修にも積極的に参加してケアマネジメントの質の向上に努めています。

3 2013年目標

地域福祉の向上に貢献できるよう、中重度者や支援困難ケースを中心とした質の高いケアマネジメントを行うという特定事業所の主旨に合致した事業所にするため、どのような支援困難ケースでも適切に処理できる体制にし、地域の居宅介護支援事業所のモデル的な事業所となれるようにします。

また、2013年1月に結成される予定の北区医師会・歯科医師会・薬剤師会・サービス事業者連絡会・居宅介護支援事業者連絡会・いきいき支援センターが参加しオブザーバーとして北区役所介護保険係が参加する仮称「北区医療福祉連携会」に居宅介護支援事業者連絡会の幹事事業所として貢献し、福祉・医療・行政との連携を深めながら今後も増加していく利用者に対してより良い援助ができる事業所になれるよう努力します。